

出題分析			
試験時間	60 分	配点	100 点
		大問数	3 題
分量 (昨年比較)	[減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>問題の分量は、空所補充が 65 問から 60 問に減少した一方、短答記述問題・短文論述問題は微増した。難易度としては、一部で難問も見られたが、昨年同様に解きやすい問題が並んだ。出題内容は、Ⅰで古代～中世のアジア諸地域、Ⅱが古代～近世中国・産業革命、Ⅲが近世～戦後の欧米と広い範囲が扱われた。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	アジア諸地域の歴史的特質の形成	問 1 の空所補充では、昨年に続いて先史時代が出題された。(1) (2), (3) (4), 氷期は約 1 万年前に終わり, 約 9000 年前に西アジアで麦の栽培とヤギなどの家畜飼育が始まった。(11) (12), インダス文明は煉瓦造りの都市が特徴的である。(19) (20) の「モンスーン」のような社会の基層となる地理的条件も歴史の理解には欠かせない。また, (25) (26) の「デカン」, (31) (32) の「モンゴル」, (33) (34) の「天山」のような地理的知識も差が付きやすく重要。問 3, カレーに使われる香辛料は馴染みがないだろうが, 南北アメリカ由来の食品から想起したい。問 5, 盲点ではあるが, 教科書や図録には写真付きで記載がある。問 7, 東南アジアの「インド化」は論述でも頻出テーマである。内容を整理しておこう。	標準
II	技術革新の世界史 (中国・ヨーロッパ)	問 1 (51) (52) の「許行」, (53) (54) の「公孫竜」は難問。(55) (56), 齊は山東半島を中心に栄えた。(67) (68) の江西省も細かいが, 景德鎮の説明としては定番の地名である。(73) (74) は「印刷」や朝鮮半島に関する記述から推定したい。(77) (78) の「ランカシャー」も細かい。問 5 (あ) の年号は難問。問 6, 蒸気機関の普及を背景に, 燃料が木炭から石炭に切り替わったことから考察しよう。	標準

設問別講評			
III	メディアの世界史	<p>問1の空欄補充は、比較的答えやすい問題が並んだが、近現代の文化・社会分野の細かい出題も見られた。(99)(100)、選択肢に迷うところだが、落ち着いて「叙事詩」を選びたい。叙事詩を残したホメロスやヘシオドスに対し、抒情詩人としてはサッフォーやピンダロスがいる。(111)(112)、イタリア併合時、フィウメは自由市であった点にも注意。(117)(118)の「コンピュータ」はやや選びにくいだが、文脈からも判断したい。(119)(120)は「国連人間環境会議」。リオデジャネイロで開催された国連環境開発会議と混同しないようにしよう。問6、トーマス=マンはユダヤ系ではない。ユダヤ系の亡命者としてはアインシュタインが知られる。問7、想定される解答は、1924年に成立したマクドナルド労働党・自由党連立政権と思われる。しかしイギリスでは第4回選挙法改正直後の1918年に選挙が行われており、第1党・保守党と第2党・自由党が連立政権を組んでいる。このため、解答例には別解を付した。</p>	標準

合格のための学習法

教科書と用語集を軸とした正攻法の学習で十分合格点は狙える。空欄補充問題は例年難易度のやや高い問題も見られるが、多くを占めるのは基本的な問題なので、知識を固めておこう。年度ごとの難易度に関きがあるので難易度が高い年の過去問にもしっかり取り組みたい。また短文論述問題については、語句の内容説明を中心に理由説明、本文の内容を踏まえた説明など、年によって論述内容は様々である。例年は字数が問題の要求に対し少なめに設定されているので、解答を要領よくまとめる訓練が効果的だろう。全体の傾向として、世界史上の交易や国際経済についての設問がみられるので、中世から現代までの世界経済の動向を長期的な視野で学習しておきたい。